

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学政治学研究科博士課程・2年

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: イェール大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

イェール大学は、アメリカ合衆国コネチカット州の中規模都市である New Haven を拠点とする大学である。アメリカでも有数の長い歴史を持つ大学であり、学術研究者の養成から実務家教育まで幅広く行う総合大学である。

留学した動機

博士論文の執筆をなるべく進めることを目標に留学した。イェール大学には、世界各国からの留学生や、教員が集まっており、彼らから自らの研究についてフィードバックを得ることを希望していた。また、イェール大学が私の研究フィールドであるブラジルについての資料を多く所蔵している点も重要であった。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦 [2011]年 学部/修士/博士 [2]年の[冬]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学
- ③留学期間: 2013年8月 ~ 2014年6月 学部/修士/博士 [2]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[]年 学部/修士/博士 []年の[]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[22]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[0]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2009]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [7]年[0]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由: 博士論文の執筆に集中したかったため、博士課程の単位を取り終え、フィールドワークを終了した後に渡航。

留学の準備

- ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
派遣先担当者にごまめに連絡を取ること。先方の返信が遅い場合、改めてメール等で連絡を入れることも有効。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
米国ビザの取得手続きは、代理店を通さずとも自分でできる。ただし、特に夏休みは混雑するので、インターネットで早めの予約をとることが望ましい。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
イェール大学側の保険である、Yale Health に自動的に加入となるので、特に別口で保険に加入する必要はない。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
イェール大学の Yale Health に自動加入。もし市販の保険を利用するならば、日本の海外旅行保険よりもアメリカの会社の提供する、アメリカへの旅行者を対象とした保険の方が相当に安く、アメリカでは使いやすく設計されている。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
日本学生支援機構の貸与型奨学金を得ていたため、渡航にあたって休止の手続きをした。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
全学交換留学の応募の数か月前から、TOEFL を複数回受験した。渡航にあたり英語の学習書を持参したが、特に使うことはなかった。電子辞書も持参したが、オンライン辞書で十分だった。
- ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
自炊する場合、保存可能なインスタントの日本食などと、胃が疲れた時に助かる。ただし、日本食材は大抵、現地でも買える。日本に書類を送ることが予想されるならば、A4 サイズの紙は手に入りにくいので持参するとよい。

学習・研究について

- ①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- Speaking Fluently 2 (ノン・ネイティブ・スピーカーのための英語の授業)
- Urban Ethnography (社会学部)
- Cultural Sociology (社会学部)

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

論文の執筆が目的のため、授業にはそれほど力を入れなかったものの、授業で課題となる本や論文には、ゼミでの議論になんとかついていけ、発言できるレベルを目安に、大まかに目を通していった。Cultural Sociologyの授業は、週2回の講義が基本ではあったが、講義とは別にゼミ形式で議論をする時間が設けられていた。学部生の受講者は大学院生のTAがゼミを受け持っていたが、大学院生の受講者は教員自らがゼミを受け持ち、少数で濃密な議論ができたため、大変に勉強になり刺激的であった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

秋学期には語学の授業を含み2コマ、春学期には1コマの授業に参加していた。それ以外の時間は、主に論文の執筆と授業の予習に充てた。

④学習・研究面でのアドバイス

研究を目的として渡航する場合、早いうちに図書館の司書にアドバイスをもらいに行くことを勧める。彼らに研究内容を伝え、必要な資料を伝えると、資料の入手や閲覧についてアドバイスをもらうことができ、更にイエール大学が資料を所蔵していない場合は取り寄せも頼める。

全学レベルで設置されているWriting Centerは、英語で論文や期末レポート等を書かなければならない場合、書き上げた文章を添削してくれる。自分の文章のわかりにくいところを指摘してもらえるため、大切な文章を書くときは大いに活用できる。またWriting Centerでは、学生の論文執筆をサポートする各種イベント(例えば、3日間、朝9時から夕方5時まで、希望者がWriting Centerに集まって論文を書き続ける”Dissertation Boot Camp”)が開催されており、それらイベントへの参加は、論文執筆の大きな助けとなった。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

重要な時は、伝えたいという意欲を持って、相手を見て、はっきり話す。伝えようと思えば伝わる。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

プログラムの用意してくれる家に、留学期間を通じて居住していた。大きな3階建ての家で、フロアごとに独立した物件(3LDK・バスルーム付)となっている。私は、1フロアを他国からの留学生2人と、合計3人でシェアしていた。

自分で住居を探したい場合、イエール大学の”Yale Graduate Housing”のウェブページに、物件情報や役に立つ情報が載っている。物件を含む地域の各種取引情報を載せている、New Havenと周辺地域対象のCraigslistのウェブページも活用できるが、対象範囲が広いので、大学に通える範囲の物件情報は、思いのほか少ない。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

イエール大学のあるNew Havenは、東京よりも寒さが厳しいため、冬の衣類を多めに持って行ったほうがよい。現地でも買ってよいが、New Havenの中にはあまり便利な店はない。他方、夏は短いため、夏服はあまり必要がない。

New Haven内の交通機関については、③の記述にある大学運行の無料シャトルバスが便利である。ニューヨークやボストンに行くには列車を利用するのが一般的である。ニューヨーク方面に多く行く用事がある場合は、Metro North鉄道の回数割引券(Ten-Trip Ticket)があるので、それを利用すると10回の利用で30ドルほど安くなる。周辺都市行のバスも走っているが、列車の方が安いことも多い。

食事は自炊をしていた。通学の通り道に、韓国系や中国系の食材を売る店があり、よく利用していた。また家から15分ほどの場所に大きめのスーパーがあり、週1回くらいの割合で買い物に行っていた。

生活費がイエール大学側から支給されていたため、Bank of Americaで口座をつくり、大学から振り込んでもらっていた。また緊急用に、日本の預金が引き出せるキャッシュ・カードを日本から持参していったが、ほぼ使用しなかった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

New Havenでは強盗などが頻発するので、住居を選ぶ場合は、十分に安全な場所であるかどうか確認すべきである。イエール大学関係者向けの巡回バスYale Shuttleや、夜間の送迎サービスを利用するのが安全である。繁華街(downtown)も夜になるとあまり雰囲気は良くないが、十分に周囲に気を付けて歩いていると、さほど問題はないように感じられる。大学の建物は街中に散らばっているが、Old Campusと呼ばれる中心部分は、学生の通行が多く、夜間の通行でも比較的安全である。私は家が安全な場所にあったため、夜9時前であれば、徒歩15分の道のりを一人で歩いて帰っていた。

医療機関の事情については、Yale Healthに入っていれば、体調が悪くなくてもYale Health Centerに行き、適切な治療等が受けられる。おそらく、周辺で最も手厚い治療を受けられるのが、Yale Health Centerである。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

渡航費は、私の参加したFox International Fellowship Programにより、往復上限2500ドルまで支給された。しかし、お盆の時期がプログラムの決めた渡航時期であったため、上限金額を超えてしまい、2万円ほど自己負担が生じた。

授業料は免除であった。必要な書籍は、帰国時の荷物となってしまうためなるべく買わず、図書館で必要な箇所をスキャンし、印刷して使っていた。

家賃は、プログラムの提供する家に住む場合、負担をする必要がなかった。家族を連れていくなど、プログラム提供の家に住めない(または選択して住まない)場合、家賃を負担する必要が出てくる。食費は、自炊のための食材で月100ドルほど使い、外食にやはり月100ドルほど使っていた。

交通費は、ニューヨーク方面に行く機会が多かったため、125ドルほどの Metro North 鉄道の回数券を、滞在中に3回買った。New Haven の外に出なければ、交通費が嵩むことはない。また、学会発表や研究調査を目的に旅行する場合、年間2000ドルを上限にプログラムに必要な経費の払い戻し申請をすることができた。

・留学に要した費用総額とその内訳

総額でみれば、参加したことで1万ドルほど貯金できた(東京大学の授業料は、支出に計上していない)。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Fox International Fellowship Program では、渡航費のほか生活費が支給され、月額1400ドル(ただし源泉徴収があるため、手取りは1200ドルほどか)受け取っていた。また上述のように、プログラムの提供する住居に住む場合、家賃を払う必要がなかった。ただし、電気・ガス・インターネットは別に払っていた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

各国からの留学生と居住空間をシェアしていたため、週末に一緒に出掛けたりなどして、よく交流していた。気候のよい季節には、街の北にある East Rock Park に遊びに行ったり、またレストランで食事などをしていた。またイエール大学には音楽学部があるため、音楽活動も盛んであり、年間を通じて頻繁に開かれているコンサートもよく聞きに行っていた。そのほか、将来の研究のためにスペイン語を勉強したいと考えていたため、日本語を勉強しているスペイン語ネイティブの学生と、お互いの母国語を教えあう時間を持って交流していた。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

総じて、留学生へのサポート体制は素晴らしく良い。語学面では、ノン・ネイティブの留学生を対象とした英語の授業が、それぞれのレベルやニーズに合わせて選択できるようになっている。生活面では、到着直後のオリエンテーションが組まれており、新しい環境に早くなじめるよう配慮がみられた。また、学生証の作成や、銀行口座をつくったり、携帯電話を契約したりといった、生活必需品に関する手続きは、他の留学生と一緒に手続きを行えるように日程が組まれており、大変に心強かった。

学習面において、授業を履修することはできないものの、受講人数に制限があるなどの場合を除き、授業に参加することは可能である。また、教員も全体的に留学生に慣れているため、自分から学習面の相談を持ち掛ければ、親身になって聞いてもらえることが多かった。特に、Fox Fellowship Program の Director を担当する教員は、秋・春それぞれの学期が始まる前に、プログラムに参加している学生への個人面談を行っており、研究計画や授業等についてアドバイスをしている。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

研究に必要な資料は、かなりの部分、自分で入手することができる。図書館の蔵書は豊富であるし、イエール大学に所蔵されていなくとも、他の周辺大学が持っている場合はすぐに取り寄せることができる。新聞と雑誌の在庫も豊富であり、海外のものでも主要なものは手に入ることが多い。必要な部分をスキャンして、自分のメールアドレスに送ることもできる。

Fox Fellowship Program が共同研究室を提供しているので、印刷・コピー・スキャンが無料でできた。また、デスクトップPCも3台設置されており、それらを自由に使うことができる。コーヒーとお茶も無料で、勉強しやすい環境だった。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

留学前と変わらず、日本で研究職に就くことを志望している。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1. 研究職
2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
3. 公的機関(機関名:)
4. 非営利団体(団体名又は分野:)
5. 民間企業(企業名又は業界:)
6. 起業(分野:)
7. その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私の意見では、アメリカの大学の最大の強みは、その多様性である。多くの留学生や、多様な考え方をする教員が

集まっており、彼らと話をすることで別の角度から自分の研究を眺めることができ、発見も多い。また特に教員は、良いと思ったことは具体的に評価してくれるので、これまで考えもしなかった自身の研究の長所に気付くことができ、自信を持つことができた。さらに、多くのアドバイスを受け、評価された部分をより発展させることができたと感じている。

②留学後の予定

2014年8月からのもう1年間、東大-イェール・イニシアティブの支援を得て、イェール大学に滞在する予定である。滞在中に法学政治学研究科に提出する博士論文を書き上げ、2015年9月に提出することを目標としている。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

私の経験上、自分から色々なところへ出掛けていったり、人と交流を持つことが、とても大事なことだと思います。やりたくないことをやる必要はないですが、新しくできたつながりから、意外な発見ができたりします。どんなことでもよいので、ぜひこれまではなかったような経験をたくさん積んでください。必ず自分の糧となるはずですよ。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

イェール大学国際課 (Office of International Students and Scholars: OISS) のウェブサイト。
<http://www.yale.edu/oiss/>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学政治学研究科総合法政専攻博士課程 3年

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: Yale大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ①研究職 ②専門職(医師・法曹・会計士等) ③公務員 ④非営利団体
⑤民間企業(業界:) ⑥起業 ⑦その他()

派遣先大学の概要

米国コネチカット州(ニューヘイブン市)の名門私立大学。

留学した動機

アメリカ政治学を学ぶため

留学の時期など

- ① 留学前の本学での修学状況: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[夏]学期まで履修
- ② 留学中の学籍: 休学/留学
- ③ 留学期間: 2013年 8月 ~ 2014年 6月 学部/修士/博士[]年時に出発
- ④ 留学後の授業履修: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[冬]学期から履修開始
- ⑤ 就職活動の時期: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥ 本学での単位数: 留学前の取得単位[22]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[0]単位
- ⑦ 入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2010]年 [4]月入学 西暦[2015]年 [3]月卒業/修了
- ⑧ 本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年 []ヶ月間
- ⑨ 留学時期を決めた理由:
博士論文の視野を広げるため

留学の準備

- ① 留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
基本的に Fox International Program が手続きを進めて下さるので、その指示(email)に従うだけでよく、大変楽であった。
- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
同上。Fox International Program の指示に従って入手した書類を用意し、米国大使館に申請する。大使館での面接には予約が必要だが、その時期は大変混雑しており、かなり遅くなってしまった。Fox 側は visa の発行が完了した旨の連絡を受けてからチケットを用意するとしていたが、事情を話し、visa 発行前にチケットを用意してもらうことができた。
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
かかりつけの病院にて、普段使用している薬を多めに用意してもらい、また、英語で診断書・紹介状を書いて頂いた。常備薬も多めに用意した。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
保険は Fox International Program の負担のもと、Yale 大学が提供する最も良い保険に加入した。
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
交換留学なので、休学はできない。
- ⑥ 留学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
日常表現について学んでおけばよかったと感じた。
- ⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
イェールに留学している・していた人と連絡をとり、現地の情報を入手するとよい。

学習・研究について

- ① 履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Fox International Program の担当者に、一学期の履修数は1か2にするよう指導があった。プログラムの他の学生の履修数は、0から4程度であり、平均すると1~2程度だった。

また、厳密にはこのプログラムの学生は授業の履修や聴講は認められておらず、授業担当教員に事前に連絡を取り、出席許可を得る必要がある。基本的に望む授業に出席することはできたが、履修者の多い一部の授業は出席の許可を得られなかった。

出席した授業: Introduction to American Politics, Inequality and Democracy in America, Speaking Fluently2

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

Speaking Fluently2 は Ph.D.プログラム所属の留学生対象の英語プログラムの中の授業の一つであり、授業内容も非常に練られた良いものであった。この英語プログラムのいずれかの授業の履修を勧める。

また、週に一度開催されるアメリカ政治のワークショップに出席していた。最先端の研究成果を知る機会是非常に有意義であった。

授業は包括的かつ体系立てて学べるアメリカ政治のゼミを選んだ。並行して自身の研究を進めた。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

秋学期は週に3コマ(100分、120分、120分)とお昼のアメリカ政治のセミナー(約70分)だった。自習の時間にかなりの時間がとられ、研究の時間が満足に確保できなかったため、春学期は1コマ(100分)とセミナー(約70分)とした。

平日は授業の予習復習や自身の研究を進めた。研究報告やレポートなど特段の差し迫った要件がない限り、週末は休みとした。

④学習・研究面でのアドバイス

何を学びたいかを明確にした方がよい。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

ゼミの議論は活発で、論点を追えないこともしばしばあるものの、そうした中で意見を述べるとき、堂々と自信を持って話せばよい。ネイティブでも、的を得ていない発言は多い。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Fox International Program が用意したシェアハウス。家賃はプログラムからの支給金から差し引かれていた。光熱費などはシェアしている他の学生と折半して、プログラムからの支給金から出した。

部屋は隣の部屋の音が筒抜けであったことや冬の高い光熱費を除けば、よかった。ベッド、机、椅子、調理器具などは既に用意されていた。ルームメイトたちと、こまごまとした足りないものや消耗品を買出しにいくだけでセットアップは完了したので、新生活のスタートは容易だった。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

お金については、プログラムからの指示で早い段階で現地の銀行口座を開き、そこに支給金が振り込まれるよう手続きをした。支給金だけで十分に暮らせた。

食事は基本的に自炊だった。徒歩圏内のいくつかのアジア系マーケットで米(コシヒカリ)、日本酒(調理酒)、みりん、醤油、みそ、味の素、お茶、納豆などが手に入るため、日本食を中心につくっていた。アメリカでは主流でない部位の豚バラも手に入る。

Yale 大学の交通機関は充実している。日中は無料のシャトルバスが、夜は door-to-door サービス(バスでの無料送迎サービス)があり、遠い場所に移動したい場合や、夜間は歩く必要がない。ただ、普段の買い物や授業に出席する場合は、徒歩 20~30 分は普通であるため、自転車の購入か長い時間歩ける服装・靴の用意が肝要。ヒールの高い靴や歩きにくい靴は勧めない。

気候に関しては、夏は湿度がないからとした暑さで、冬はとても寒い。私の年は雪も車が埋まるほど積もったことが何度かあった。雪道を歩ける靴や防寒着は現地でもよいから購入する必要がある。

③ 機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ニューヘイブンは全米でもトップレベルに治安が悪い地域である。暗い時間はもちろん、夏の暑い日中の、人気がない場所での一人歩きも推奨できない。夜は男性であっても door-to-door サービスの利用は必須である。「外で携帯や ipod を取り出さないように」という指示を何度か受けたが、はじめ聞いたときはとても驚かされた。実際、強盗はとても多い。夜7時以降の一人での街歩きは絶対にしないようにしていただきたい。

Yale 大学のキャンパスにある Yale Health はとてもきれいで立派で、優れた信頼に足る医療機関である。いざというときにはしっかりと利用するとよい。Fox International Program が入っている保険は、基本的な医療を無料にしてくれる。薬代だけで済む。ただし歯科治療は保険適用外なので、日本で事前に治療しておくべきである。また、急を要さない治療には予約が必要であり、下手をすると一か月以上先の予約になってしまうため、早めに行動に移すとよい。

④ 留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

半月に一度、600ドルが支給されたので、毎月 1200ドルを使うことができた。これは家賃を引いた額である。ここから光熱費や携帯、インターネット料金を支払うと、1000ドル程度になる(冬は光熱費が以上に高く、900ドルほどとなる)。

外食は高いが食材はさほど高くないので、節約を意識せず自炊しても十分に余裕があった。お肉が安かった。研究書も何冊も買った。

授業料は東大側に納めていた。

プログラム開始と終了の往復チケットはプログラムから支給された。期日や便については、しっかりと要望を出すとうい。私は日本の航空会社の直行便の、通路側をお願いした。帰国便の期日変更は可能である。私はプログラム終了の5か月ほど前に、プログラム担当の教員に話をし、変更した。差額があった場合は自腹とのことだったが、無料で済んだ。

一時帰国のチケットは自腹である。

・留学に要した費用総額とその内訳

自己負担はゼロだったように思える。年末年始の一時帰国の費用程度。一度、DCに資料調査に赴いたが、その費用もプログラムの支援があった。

④ 奨学学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

なし(Fox International Program の支給金や支援のみ)

⑤ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

現地ですれた友人と遊んだり、ジムで運動していた

派遣先大学の環境について

① 留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学のプログラムを含め、非常に充実していた。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

大学施設近辺では無料 wifi が利用できたのが非常に便利だった。図書館は改装中の場所が多く、あまり利用しなかったが、図書館のサービスや契約している雑誌論文などは東大を圧倒していた。

留学と就職活動について

① (就職活動を既に行った場合) 留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

② (今後就職活動を行う場合) 留学が就職に対する考え方に与えた影響

③ 留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④ 就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1. 研究職
2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
3. 公的機関(機関名:)
4. 非営利団体(団体名又は分野:)
5. 民間企業(企業名又は業界:)
6. 起業(分野:)
7. その他()

留学を振り返って

① 留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

ありきたりではあるが、非常に有意義であった。日本を客観視する良い機会であったし、アメリカという国をよく知ることができた。もちろん、アメリカ政治学についてもよく学ぶことができ、自分自身の立ち位置を明確にすることができたことが、最も意義のあることだったことは言うまでもない。

② 留学後の予定

更に一年、イェール大学の Department of Political Science にて客員研究員として滞在予定。

③ 今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

どの段階でもよいので、留学するとよいと思う。早ければ早いなりに得るものがあるし、博士論文執筆中であっても、得るものがあると思う。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。